

会 員 募 集

会員を募集しています。わたしたちの活動をご理解していただき、ご協力できるかた、ごいっしょにアジアでのボランティアを始めませんか。

(1) 入会金	正会員	1万円	団体正会員	3万円
	活動会員	なし	団体活動会員	3万円
	賛助会員	なし	団体賛助会員	なし
(2) 年会費	正会員	1万円	団体正会員	3万円
	活動会員	5千円	団体活動会員	3万円
	賛助会員	1口5千円	団体賛助会員	1口5千円

振り込み先

特定非営利活動法人T・M良薬センター
群馬銀行本店 普通口座 2134150
郵便局 00160-5-591781

特定非営利活動法人T・M良薬センター事務局
〒371-0852
群馬県前橋市総社町総社1024
(Tel&Fax) 027-254-2325
(E-mail) office@tmrc.jp

ロンジークラブ



T・M良薬センター ニュースレター

ニュースレター第3号
平成15年12月1日
T・M良薬センター事務局
TEL・FAX 027-254-2325

もくじ

ミャンマー事業の動向
ネパールでの活動
パタン事務所OPEN!
日本での活動
会員募集のお知らせ

ミャンマープロジェクトの動向

2003年8月に、日本で回収し、発送した約1140kgの古着はミャンマーの孤児院やハンセン病診療所など、各所に無事に届きました。ご協力していただいた皆様ありがとうございます。

段ボール38箱、580枚の古着を受け取り、Daizu村に運んだU Nyi Nyi氏から報告が届きましたのでここでご紹介いたします。

手紙の内容：TMRCから受け取った古着をDaizu村に無事に届けたことを報告できることを大変うれしく思う。古着を受け取った多くの貧しい人々は大変喜んでいて、しかし、数が限られていたので古着を受け取れなかった家族はそうは喜ばなかった。まだまだ多くの困っている人がいるので、服だけでなく様々な物資を、できる限り沢山送って頂きたい。私はDaizu村に古着を寄贈したことをレポートしたのでTMRCヤンゴン事務所の方へ報告する。また何かミャンマーで奉仕活動をする事があれば気兼ねなく連絡してほしい。また会える日を楽しみにしている。

C 82, Gandamar 4th Lane
FMI City, Hlaing Thaya Township
Yangon, Myanmar


Date 22nd Oct. 2003

Dear Ono,

I am very glad to inform you that, used cloths donation of TMRC had successfully done in Daizu village, last week. The poor families who got the cloths were very happy, but others were not for less cloths acceptance comparing with population. When you were in Myanmar, you saw many places where the poor families were living. Thus, I would like to request for them, not only the used cloths but also other supplies as sufficient as possible. I took static of population and records of donation activities, and you can get them at TMRC (Myanmar) office. I can volunteer for any activities of TMRC in Myanmar and do not hesitate calling me.

I am looking forward your next visit to Myanmar and I will bring you to more other places, that will be exiting you.

Yours sincerely


(Nyi Nyi)



Report :

- ・箱数：36箱
- ・古着の枚数：580枚
- ・村に住む家族：724組
- ・集まった家庭：173組

コメント：多くの家族が限りある服受け取ることをあきらめざる得なかった。ほとんど女性の服であったので次回は男服、子供服を求む。

日本での活動報告

11月28日(金)に杉並区堀之内妙法寺で開催された「いのり題目の日」の中でNGOの展示会が行われ、海外で活躍する先輩NGO団体と肩を並べ、当「T・M良薬センター」も招待され展示ブースをいただきました。ポスターや写真の展示、活動紹介等、広報活動させていただきました。1000人を超える参加者は法要の前後、興味深く各ブースを見学していききました。TMRCのブースは展示とともにアジアの物産の即売会を開き、人気を集めました。売り上げの38,500円は運営費に利用させていただきます。

展示の準備をするTMRC会員

12月7日(日)埼玉県岡部町の養鶏場を利用して年2回開催されている「第27回リサイクル運動推進のフリーマーケット&第9回手作り工芸作品のクラフト展」に参加、出店し、集まっていた古着も一部販売しながら、ミャンマー関係の展示即売会を開きました。



当初予定していた、ミャンマーで大人気のラペイエ(ミルクティーのようなモノ)作りは衛生上の理由で断念せざるを得ませんでした。美しい模様のロンジー(巻きスカート)や珍しい形のバッグなど沢山の人々の関心を集めました。

お客様にチラシを配る会員

小野文琬理事長の講演活動

- 11月22日 近畿社教連合会
- 11月28日 東京西部宗務所「いのり題目の日」
- 12月4日 東京北部布教師会教師研修
- 12月25日 前橋「生と死のフォーラム」
- 1月12日 東京「現代仏教の集い」

ネパール・パタン事務所Open!

11月1日よりTMRCネパール・パタンに事務所が開設されました。ネパールでの活動の窓口であるパタン事務所長ラジバイ・釈迦氏は2年間日本留学し、ホームステイ先の群馬県藤岡市天龍寺で日本仏教を学びながら、本庄情報処理専門学校に通いました。



ishakya@hotmail.com

パタン事務所住所
Okubahal, Mahabudha
Patan - 6
NEPAL

所長
Raj Bhai Shakya

電話
(- 9 7 7 - 1) - 5 5 2 5 9 8 7

E-mail
ラジバイ釈迦所長 rajbha

2003年11月30日～12月2日、3度目のミャンマー渡航を果たした田代副理事長は盲学校に点字器具（点筆と定規のセット）とノート20セットを寄贈しました。



また、社会福祉省と接触し、MOU締結へ向け話し合いを進めました。盲学校長でもあるウ・マンミン副局長はTMRC障害者リハビリセンター建設についてセンターに関する詳しい説明書を要求しました。それはセンターで行う講習のカリキュラムや建物内の器具の

取得についてや、患者や生徒に関してなど細部にわたって記した書類を提出しなければなりません。その後省の上層部や裁判所で審査が行われ、MOU締結までに書類作成後1年以上かかるようです。これからはウ・マンミン副局長に直接、提出書類案をEメールで送り、添削してもらうことになりました。何度かメールのやりとりを経て書類を提出していただきます。

TMRCネパールプロジェクト!!



2003年11月7日～13日の日程でTMRCメンバー小野恵教がネパールへ派遣されました。お釈迦様の子孫、釈迦族が多く居住するパタンの都を拠点とし、TMRCネパールプロジェクトが始まります!! 次のページへ。

王宮跡。パタンにて。

ナマステ。ラジバイです。釈迦族の多く居住する町パタンはネパールの首都カトマンズの南に隣接した古都です。パタンは芸術の町としても有名で画家や彫刻家が多く住んでいます。通りを歩くと沢山の仏像や曼陀羅が目に入ります。レンガ造りの町並みは落ち着いた雰囲気、中心部の王宮のある一角はその当時にタイムスリップしたようで時の止まった空間です。パタンに住む釈迦族の方々はお釈迦様は自分のおじいさんだと信じています。仏教を深く信仰するパタンの住民はとても温かく接してくれます。その町で先祖代々仏像づくりに従事する私は2004年に「リピタプグティ・パタン」の理事長に就任することになりました。ネパールの伝統文化を守るため一生懸命仕事に励みます。どうぞよろしくお願いします。何かありましたら気軽にご連絡下さい。

T M R C が以前より支援を続けていた、釈迦族の仏教寺院、タウケル寺がパタン市に完成し、去る 11 月 8 日落慶式が執り行われました。寺院建設において、500 ドルの寄付をした T M R C はタウケル寺住職のギャンカージ・釈迦上人から落慶式参席の招待を受け、表彰されました。ガラ



ラと照りつける太陽の下、100 人以上の僧侶と信者さんが集まり、ネパールのお経が響き渡る中、幕がはずされ黄金のお釈迦様の像が現れました。仏教の聖地ネパールでこれから未来永劫アジア仏教の拠点として末永く輝いていていただきたいです。

ネパールプロジェクト始動です。

ネパールに古来から伝わる仏教文字ネワリ文字は 3000 年の間教典や仏教遺跡に用いられており、人々の生活に深く浸透していました。しかし、先代王マヘンドラ=ビル=ピクラム=シャハはインドから伝わった文字を国語とし、神々の文字ネワリは少しずつ忘れ去られていったのです。長い歴史をもつネワリ文字の消失はネパールの仏教文化そのものの消失につながります。

今 T M R C はネパール文化発展のため、このネワリ文字を後世に伝えようとする同志が集まり 1996 年立ち上げた学塾「リピタプグティ」(文字上達グループの意)を経済的に支援する活動を始めました。ボランティア同然で活動していた「リピタプグティ」は経済的問題で経営不振の危機にさらされているのです。11 月 1 日に行われた「リピタプグティ」の総会では T M R C も参加し全面的にサポートすることが決まりました。熱心な話し合いの結果「リピタプグティ」の方針が決まりました。

「リピタプグティ」当面の方針は次の通りです。

第 2 回教科書発行：一度教科書発行するが経済的理由で打ち止めされる。

新聞の再発行：独自の新聞を発行していたが経済的理由で打ち止めされる。

ネワリ文字のフォントの作成：手作業から P C による作業へ。

現在日本で運営費のスポンサー交渉中です。



授業風景。生徒がある程度集まると連絡が来て講師を派遣し、文字を教えるリピタプグティ。老若男女問わず集まった生徒達は 1 ヶ月半のコースで熱心に文字を学ぶ。現在のクラスは男 21 名、女 13 名。

リピタプグティの事務所にて。講師達は皆リピタプグティの卒業生で、各自文字を学び、習得した有志達だ。完全なボランティアで授業をして、余裕のある人から率先して運営に参加している。

